



AIと私たちは、これからどうかかわっていったらよいだろう

夏休みが明け、学校生活が再び始まりました。生活リズムを整えながら、一人ひとりが自分の目標に向かって落ち着いて歩みを進めてほしいと思います。

通信制高等学校では、日々の学習を自分で計画し、継続して取り組む姿勢が大切です。9月は、これまでの学習状況を振り返り、後半の学びをより充実させるよい機会です。レポートの提出状況や学習の進み具合を確認し、無理のない計画を立てていきましょう。

また、進路について考える大切な時期でもあります。特に卒業年次の皆さんは、出願や試験、就職準備が本格化していきます。不安や迷いがあるときは、一人で抱え込まず、担任や先生に早めに相談してください。

季節の変わり目で、体調を崩しやすい時期でもあります。睡眠、食事、休養を大切にしながら、自分のペースで学校生活を整えていきましょう。9月も、皆さんの前向きな取り組みを応援しています。

上記の文章は、「9月 学校だより 通信制高等学校」をキーワードに入力し、AIを使って瞬時にできたリード文です。どうですか？ よく書けていると思いませんか？ まさにこの時期の通信制高校の生徒に伝えたい内容がきちんと網羅されており、とても読みやすく表現された文章です。

つたない表現力で何とか、翔洋学園のよさや、校長の思いや願いを伝えたい！と思って翔洋通信を書いている私にとっては、何だかモヤモヤとした嫉妬心？のような感情が湧いてきます。と同時にやはり伝えたいものやこと、思いの強さでは負けていないぞ！という自負心も頭をもたげます。

先日、次期学習指導要領（文部科学省が定める学校教育カリキュラムの全国共通基準で、幼稚園から高校までの各教科の目標や内容、授業時数などの枠組みを示したもの）の素案が示されました。高等学校は2032年から実施が始まることとなりますので、今の生徒の教育課程は変わりませんが、今後の方向性が決まってくると、少しずつ新しい学習内容や学び方が導入されるようになっていきます。

今回の改定の目玉になっているのが、教育への人工知能 AI の活用です。小中学校から「情報」が教科に組み込まれ、高校卒業までに AI やデータサイエンスを使いこなすレベルを目指すことが示されました。

私のようなアナログ世代ではない、若い世代にとっては、今や AI は、すでに生活の一部として取り込み自然に使いこなしているものかも知れません。学校教育の中で、情報技術の適切な取り扱いやその特性を学び、情報活用能力を向上させることが、これからの社会を生きていくための必須条件になるのでしょうか。

一方、別の報道で、アメリカのニューヨーク市では、公立の小中学校で9月からの新年度1年間、AIの利用を原則禁止にすることが発表されました。児童生徒による AI 依存が、自分で考えて問題を解く能力を弱めかねないことや、教師や同級生との交流を妨げることへの懸念が背景にあるとされています。

「使うんか〜い?」「使わんのか〜い?」という突っ込みが聴こえてきそうな話です。

人口減少と少子高齢化という「縮小社会」が想定されるこれからは、AI やロボット技術を積極的に生活に取り込み共存していくことが不可欠です。それにともない、交通機関における自動運転技術導入などのように、これまで人が担ってきた社会的な役割はどんどん AI やロボットに置き換わっていくでしょう。私たち人間が社会をどう支え役割を果たしていくのか、これからの時代を生きる若者の大きな宿題かも知れません。

今回はちょっと堅い話になってしまいましたが、みんなで考えてみましょう。

…つづく



「情報」を学ぶことの重要性はますます大きくなります